

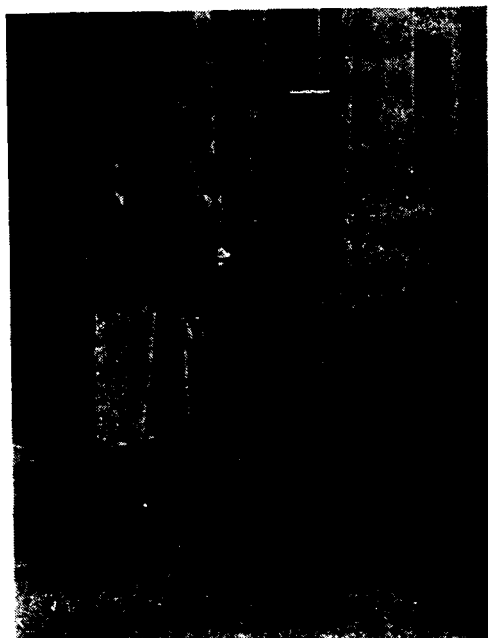
# 北支建設總署を訪れて

廣岡勝治\*

支那事變が勃發し皇軍破竹の進撃を承けて新中國を建設すべく種々計畫せられた文化工作並に政治工作の一として今春北京に中國臨時政府建設總署が設置せられました。そしてその日系要員として三浦技監以下滿洲、日本、朝鮮より多數技術官の赴任を見たる事は既に本誌7月號に記載せる通りであります。先般坂田司長は北支軍特務部よりの招請で此の建設總署並に軍特務部を公式訪問せられた。私はこれに隨行したのであるが、その模様をお傳へします。

からであります。晚北寧招待所に於てこの技官一同と膝を交へ打解けて語り合ひました。だ家族と別居してゐるのが大部分で生活上の自由、不便は滿洲事變直後の新京と大差ありません。しかしこれに打克つてよく業績を擧げとする熱意と殉國の精神とはあらゆる點に見られました。

翌6日愈々建設總署を訪問しました。廳舎2階建の薄暗いお粗末なものです。この總署隣に居川部隊と云ふのがありますが、嘗て軍局の經理科長であつた居川氏が部隊長として活躍して居られることは不思議な因縁とひました。三浦技監と股同署長の室とは隣に設けられてありました。こゝで署長を始めて人の局長に挨拶をなし直ちに股同氏の招宴



建設總署玄関に於ける坂田司長と股同氏

9月5日に北京到着、軍特務部を訪問し佐伯少將を訪ね更にこゝで建設總署の日系技術官多數に面會しました。これは三浦技監以下皆軍囑託を兼任し夫々席をこの特務部にも持つてゐる



向つて左より股同、佐伯少將、坂田、三浦の諸氏

\*交通部長技佐

ました。坂田司長は建設總署の設立に就て昨年以來格別の盡力をせられ謂はばその生みの親であつて恐らく感慨深いものがあつた事と思ひます。

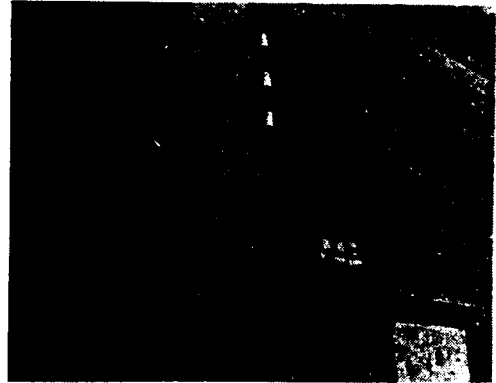
殷同氏は嘗ての武人であるだけ見るからに豪放なそして健康そのものゝやうな偉丈夫で日本音も仲々お上手です。席上坂田司長は滿洲建國當時より今日に至る道路建設の経過を説明せられました。これに對し殷同氏より種々質問があつましたが極めて要を得たもので、これにも同氏の並々なぬ人物なる事を感じました。矢張り土木事業遂行上起る人民との接觸例へば賦役の問題、或は用地收用の問題等に關し最も深い注意を拂つて居られるやうでした。外の局長は少し日本語が分る程度で何れも殷同氏より線は細いが好人物揃ひです。

臨時政府に於ては滿洲國と異り日系のものは極めて少數で政務遂行に就ては單に中國人の活動を指導並に援助する程度で、この間の要領を呑み込むことは餘程骨の折れる問題のやうでした。事業の方は着々進捗し道路は河北に山西に迄至りとして警備道路を急造してゐるのですが前線は今尙交戦中であり、敗殘兵は到る所に横行し其の苦勞は我滿洲建國當時以上のものがあります。明年度より飛躍し豫算も1千萬圓以上になるとの事です。河川關係は大黄河治水計畫も一先内定し、その他の河川も調査を急ぎ或は決潰防の修復に或は塘沽港の浚渫作業に絶大なる力を傾注して居られます。

この招宴の答禮として同夜滿洲國側が一同を乙飯店に招待しました。今後滿洲國とは充分調連絡して進みたいとの熱意は殷同氏の呉々披瀝せられた所でした。又7日には特務部の待がありました。

北京から濟南に行く豫定でしたが軍の飛行機都合悪くこれを中止し汽車で天津に赴きまし

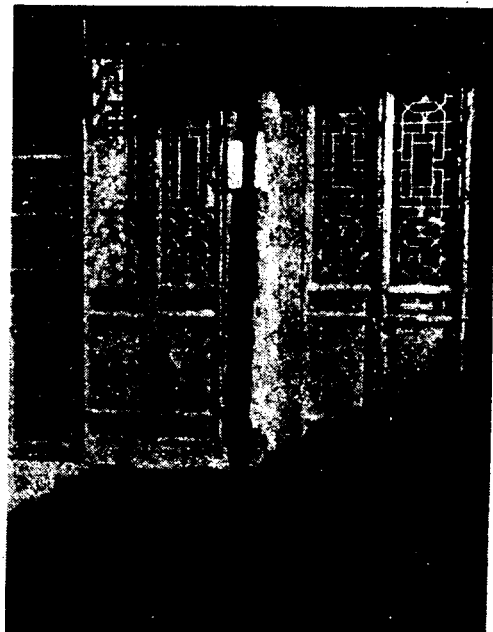
た。天津には建設總署の天津水利工程局及北京公路工程局の天津施工所があります。何れも寫眞のやうな假の事務所です。滿洲國出身の篠田技正以下多數元氣で活躍して居られました。



天津水利工程局支關

歸途私共が乗つた北京丸が塘沽沖の淺瀬にかゝりこゝで一晩泊められ翌朝三時半の滿潮を利用して出たのでありますが、その場所が丁度天津水利工程局の浚渫船と隣合つてゐたことも亦不思議なことでした。

終りに「滿洲の土木技術者一同によろしく」との言葉をお傳へしてこの報告を終ります。



天津施工所